

ABプレハブ無駐在局舎

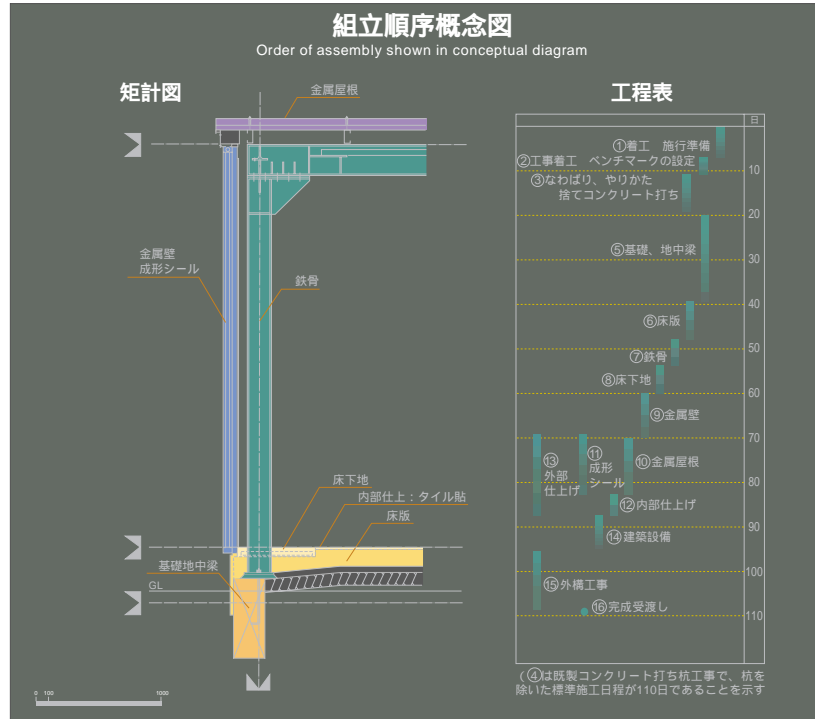
A- and B-type prefabricated unattended exchange buildings

第三次五カ年計画で、10,000端子に満たない小電話局の建設が増加した。

当初は、屋根・壁にALC版が使われたが、これを金属パネルに転換するなどの改良が加えられた。

在来現場打ちコンクリート工法に比べて、約2カ月現場工期の短縮が可能となり、

本格的なプレハブ電話局として全国の低トラヒック地域に多数建設された。



建物名：ABプレハブ無駐在局舎
 建築面積：230.59m²
 延床面積：229.67m²

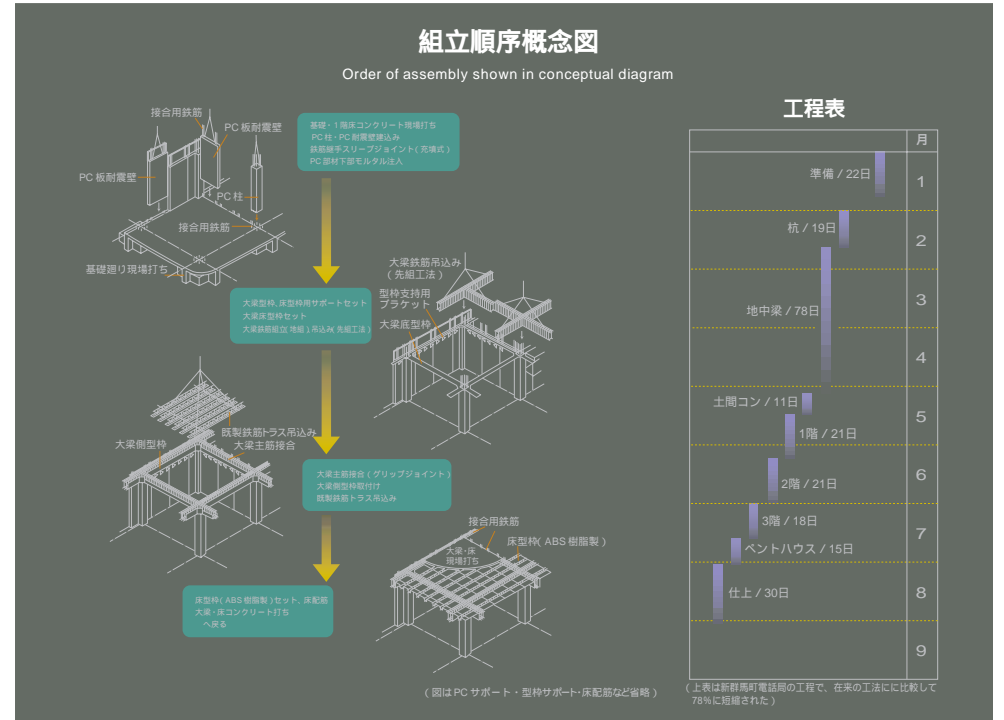
コンクリート系中規模プレハブ局舎(DESC - C)

Concrete-based middle-size prefabricated exchange buildings (DESC-C)

鉄骨形プレハブ局舎の試行を経て、一層の経済化のために、現場打ちコンクリートを取り込んだ本方式となった。

この局舎は、1,000m²～5,000m²、地上4階程度を対象とするコンクリート系のプレハブ工法であり、

部品と接合部を標準化することにより、多様な組み合わせができるオープンシステムで、様々な平面形に適用できた。



建物名：新群馬町電話局
 所在地：群馬町棟高字東新堀787
 竣工：1979年
 敷地面積：2574.90m²
 建築面積：478.04m²
 延床面積：478.04m²